

第3回 今の自分が100%だと思わない
～ 本校での教育実習 ～

本校卒業生を対象にした5月の教育実習生の中で最年長の永田さんにお話を伺いました。

2週間の教育実習、お疲れさまでした。最初に、教員免許を取得しようと思ったきっかけをお聞かせいただけますか。

私は、現在59歳で民間企業に勤めていますが、3年くらい前から退職後のことを考え始めました。以前から、自分の子どもに勉強を教えた経験から、子どもたちに教えるのはおもしろいなと思っていたところ、同僚が早期退職をして、目黒区で中高生に勉強を教えるボランティアを始めました。自分も誘われて関わるようになり、改めて子どもたちに教えることのおもしろさを感じました。一方で、これまで生きてきた中で、自分の原点は光陵高校であり、自分の選択肢を広げることの大切さを感じていたため、子どもたちに教えるとしたら、教科だけでなく、そのようなことも伝えていきたいと思いました。そのために、ボランティアではなく、教員として教育に携わりたいと考えました。働きながら教員免許を取るために、通信制の大学に所属し、必要な単位を修得し、何とか教育実習までたどり着けました。可能であれば、来春から臨時任用の教員として勤務できたらいいなと思っています。



民間企業の定年退職を前にして、教員免許を取得しようという意欲と行動力は素晴らしいですね。

人生を結果やゴールでとらえる考え方と過程やプロセスでとらえる考え方があると思います。今、私が思うのは、人生は常にプロセスなのではないかということです。そう考えると、年齢は関係ないのではないかと思います。先生に勧められていただいた大村はまさんの著書「教えるということ」の中に、「常に研究をし続けていなければならない。なぜなら、生徒は最大限に伸びたいわがままな人間だから。それにどれだけ付き合えるのかが教師の資格である。」というフレーズがあり、大変共感しました。年齢は重ねていますが、理想の教師をめざしていきたいと思っています。

高校の教壇に立つという夢が叶ったら、どんなことをしたいですか。

私は、理科系の大学を卒業し、就職しようとした際に、光陵高校での同級生に誘われて、ひよんなことから、今の企業に就職しました。自分で考えたり、努力することは大切なのですが、特に同世代の友人たちがどんなことを考えているかということも大事なのではないかと思っています。勉強もそうだと思いますが、目に見えないつながりが、実は人生には大切なのではないかと思っています。そんなことを伝えて行けたらと思います。

教育実習期間、どんな2週間でしたか。

大変楽しい時間でした。特にホームルームですね。組織によって情報共有のスタイルはいろいろだと思いますが、朝の職員打ち合わせの前の30分、職員室での先生方のやりとりがとても重要だと感じました。いろいろな情報を仕入れておくと、生徒の中に入っていくのもスムーズでしたし、楽しかったです。生徒とトイレ掃除をしながら交わした会話も楽しかったです。教科指導では、実験はまだよかったです。教室での授業は思い通り運ばず、難しかったです。長いスパンで指導計画を立て、生徒が主体的に活動する場面も取り入れてやってみたいと思いました。

民間企業の定年退職を控え、教育の世界で再出発をと考えている永田さんの存在は、教員たちにとっても刺激になったと思います。

皆さんには、お気遣いをいただき感謝しています。教員の方々が、たとえば1年間、民間に派遣されるということはあると思いますが、逆に民間から学校への派遣というのもいいのではないかと思います。物理の授業では、最低限伝えなければならないことをいかにコンパクトに伝えるかということが問われました。中には物理が好きでないという生徒さんもある中では、自分が深く理解していないといけませんし、企業でプレゼンテーションする際に、多いに参考になりました。

永田さんが高校生だった頃の光陵高校について聞かせてください。

自由な雰囲気でおおらかでしたね。今にして思えば、先生たちが、光陵生を信頼してくれていたのだと思います。生徒たちは、先生たちの信頼を感じつつ、その信頼にどう答えたらよいかということは無意識に考えていたのだと思います。自分たちは、まさに大村はまさんの「教えるということ」の中にある「お釈迦さまの手」に導かれていたのだと思います。今年の体育祭での1年生を見て、ことばでいわれなくても、先輩方から伝わっていくものがあると感じました。1年生が光陵高校に入学してきて、光陵生になる一種のイニシエーションと考えれば、毎回同じことの繰り返しかもしれませんが、それこそが大事なのではないかと思います。

今の光陵生を見てどう感じましたか。

私が中学生から高校生になった当時は、学生紛争の影響もあり、急に大人になったような気持ちでした。今は当時に比べると、社会が急速に複雑になってきているので、今の高校生の方が大変なのではないかと思います。実習中に、インターンシップの案内をしましたが、こういう取組みがあるのはいいことだと思います。組織の中で自分という個人をどう生かしていくかというのは難しいと思いますし、大きな課題だと思います。

最後に、光陵生に向けて、メッセージをいただけますか。

「今の自分が 100%だと思わない。」ということです。思わぬところに可能性があります。私は高校時代、運動が苦手だったのですが、30 代にウインドサーフィンを始めたら、これが結構いいのですね。自分にはバランス感覚があることもわかりました。運動が苦手というよりも、球技が苦手だったということに気が付きました。自分の中に意外な面が潜んでいるということもあります。高校時代の得意・不得意が一生続くわけではありません。また、自分の中にある様々な可能性を広げるという意味でも、同世代の友人を大切にしたいと思います。

今日は、どうもありがとうございました。